令 和 ８ 年 度 学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 県立川越特別支援学校川越たかしな分校 ）w43b

目 指 す 学 校 像	「生徒の可能性を広げ、未来をたくましく生きる力を育成する学校」

重 点 目 標	1 社会自立に向けた豊かな学びと、生徒が自己理解を深め、たくましく生きる力の育成 2 生徒の安全意識や社会性を育み、社会に開かれた学校づくりの推進 3 生徒自らが選択し自己実現ができる支援体制と、人に優しい学校づくり

※ 重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

学 校 自 己 評 価								学 校 関 係 者 評 価
年 度 目 標					年 度 評 価 （ 月 日 現 在 ）			実施日 令和９年２月 日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	生徒一人一人の実態に応じた学びを推進し、主体的に学ぶ姿勢を育てるとともに、社会で自立して生きていくために必要な力を育成する。そのために、教員は生徒のニーズに応じた多様な支援方法や自立活動の取組を充実させる必要がある。教職員は、専門性の向上を図る研修を継続し、指導力・支援力の向上に努める。	・研究をとおして生徒の実態とニーズに応じた職業や自立活動の適切な目標設定と、支援の充実を図る。 ・生徒が自己理解を深め、主体的に学習に取り組む。	・研究を推進し、専門的な視点を踏まえながら、職業や自立活動を見直し、個々の生徒への支援を工夫する。 ・実習評価や作業日誌、毎日の手帳の振り返りを用いて活動目標や成果を可視化し、自分の課題に向けて取り組めるよう支援する。	・生徒のニーズに応じた職業や自立活動の目標設定を行い、研究を活用しながら工夫した授業が適切に実施できたか。 ・生徒が得手不得手を知り、自信を深め、主体的に自ら学習に取り組む姿が見られたか。				
2	川越特別支援学校本校との交流を行い、生徒同士の交流の深まりが感じられるようになった一方で、初雁高校生とのふれあいや共生社会の一歩目としての具体的な取り組みが課題である。高校内分校の特色や地域での安全な生活を目指し、学校の教育活動を積極的に発信しながら、初雁高校・地域・保護者・関係機関と協働する開かれた学校運営を推進する。	・初雁高校や本校との同年代との好ましい関わりや、取り組みを充実させる。 ・地域社会の中での学校の役割を意識しながら、安心安全な取り組みと、共生社会の視点を広く啓発、発信していく。	・地域販売や自治会との協働活動、本校や初雁高校との交流や、安全活動等の機会を持って、地域の安全や地域社会の中での継続した活動を設定する。 ・学校説明会や、ホームページやインスタグラム等で共生の取組や職業、交流活動、地域販売など特色ある活動を発信する。	・本校・初雁高校との交流活動を計画的に実施し、協働的な関わりやコミュニケーションの広がりが見られたか ・地域販売や協働事業の告知、初雁高校・本校との交流に関する投稿に加え、共生事業や安全教育等について周知・配信することができたか。				
3	家庭や地域、企業、福祉事業所や関係機関との連携を深め、生徒と保護者の進路理解を促進し、一人一人の特性を生かした進路選択と、社会参加を実現する必要がある。 そのために、学校と家庭が、進路指導やキャリア教育に関する情報共有を積極的に進め、生徒の自己実現を果たせるよう、生徒に寄り添った支援体制、人に優しい学校づくりを推進する。	・外部機関との連携を深め、進路講演会説明会を開催し最新の進路情報や福祉制度をわかりやすく提供する。 ・学習状況を家庭と共有し学校と家庭が共通理解のもとで、生徒や家庭に寄り添った支援を行う。	・産業現場等における実習や、企業見学、講演会、福祉事業所体験等を計画的に実施し、生徒が進路について考え選択できる取組を実施する。 ・外部講師を活用し、生徒の課題や成長を保護者と共有しながら相談や質問を受けやすい体制を整え、学校・家庭で共通理解をもって生徒の自己実現を支援する。	・地域、企業、関係機関と連携し、実習機会を確保しながら、進路選択につながる取組が行えたか。 ・学習や現場実習の状況、面談や相談をとおして、生徒の自己理解が深まり、生徒のニーズに応じた丁寧で適切な支援を教員、組織で行えたか。				